

41 自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発

【545（0）百万円】

対策のポイント

多収で食用米と識別性がある飼料用米等の開発、自給飼料を活用した高付加価値畜産物生産技術の開発を行います。

<背景／課題>

我が国は、輸入飼料への依存度が高いため、輸入トウモロコシを飼料用米で代替すること等により、飼料自給率を向上させ、国内における畜産物の安定供給を確保する必要があります。

政策目標

- 10アール当たり1トンの多収で食用米と識別性のある飼料用米を5品種以上開発
- 飼料用米等の自給飼料多給型畜産飼養技術を開発

<主な内容>

①超多収飼料用米・飼料作物の品種育成

多収で食用米と識別性がある飼料用有色素米、暖地向き三毛作用トウモロコシ等の品種開発を行います。

②持続的飼料生産技術の開発

飼料用稲・飼料用麦二毛作体系を基軸とした飼料生産技術、家畜ふん堆肥を用いた持続的な低コスト飼料用米栽培技術、立毛乾燥等による飼料用米の低コスト調製技術等の開発を行います。

③飼料用米多給を中心とした高付加価値畜産物生産技術の開発

牛・豚・鶏への輸入トウモロコシに代替する飼料用米の給与技術、放牧による畜産物の安定生産技術、機能性飼料の給与による家畜のストレス回避技術等の開発を行います。

④自給飼料の広域流通技術の開発

広域流通における高品質な発酵TMR（完全混合飼料）等の長期保管技術及び簡易品質評価手法、新たな微生物資材による発酵飼料の長期安定化技術等の開発を行います。

自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発 545（0）百万円
補助率：定額
事業実施主体：民間団体等

お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究開発官（食料戦略）

（03－6744－2214（直））

自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発

背景

- ◆ トウモロコシ国際価格上昇と飼料の輸入依存
- ◆ 自給飼料のTDN(可消化養分総量)が低い
- ◆ 飼料自給率26%(H20)
- ◆ 耕作放棄地38万ha

政策目標

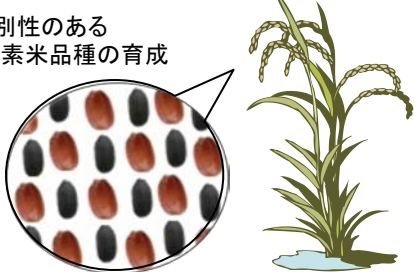
- ◆ 国産飼料の有効活用による飼料自給率の向上
- ◆ 自給飼料の生産や飼料用米の利用の促進

研究内容

育種

超多収飼料用米・飼料作物

- ・多収で食用米と識別性がある飼料用有色素米品種の開発
- ・暖地向き三毛作用トウモロコシ等の開発
- ▼食用米と識別性のある飼料用有色素米品種の育成



栽培

持続的な生産技術の開発

- ・飼料用稲・飼料用麦二毛作体系を基軸とした飼料生産技術の開発
- ・家畜ふん堆肥を用いた持続的飼料用米栽培技術の開発
- ・立毛乾燥等低コスト飼料用米調製・利用技術の開発

- ▼水田における飼料用稲、飼料用麦の体系的な生産技術の開発

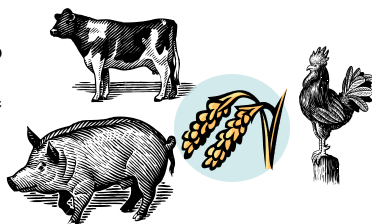


調製・給与

高付加価値化技術の開発

- ・飼料用米による輸入トウモロコシ代替給与技術の開発
- ・放牧による高品質な畜産物安定生産技術の開発
- ・機能性飼料の給与による家畜のストレス回避技術等の開発

- ▼牛・豚・鶏における輸入トウモロコシの飼料用米による代替給与技術の開発



流通

広域流通技術の開発

- ・広域流通における高品質な発酵TMR等の長期保管技術及び簡易品質評価手法の開発
- ・新たな微生物資材による発酵飼料の長期安定化技術等の開発

- ▼自給飼料の広域流通のための簡易品質評価手法の開発



国産飼料の生産から給与に至る自給飼料利用の総合的な研究推進

自給飼料の増産促進
国産畜産物の高付加価値化